

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、自信を持って社会に参加できる人間を育成

1. 地域との連携を緊密に図り、地域から愛される「元気な学校」「きれいな学校」をめざす。
2. やさしさ、温かみを背景にした厳しい生徒指導を通して、基本的生活習慣を身につけ、規範意識の高い生徒を育成する。
3. 「確かな学力」である基礎的・基本的な学力を定着させると共に、自他敬愛、共生の「豊かな心」をはぐくみ「生きる力」を育成し、学校への帰属意識を高め、中途退学を減らす。
4. 全教職員が同じ方向に向き、生徒の目標実現や課題解決に向け様々な工夫を講じ、生徒・教職員が共に充実感や達成感を味わうことのできる学校をめざす。
5. 生徒や保護者、中学校、地域のニーズに的確に応えられる教育内容の充実を図り、教職員が最大限の力を発揮し「学校力」を高めることで「信頼できる学校」をめざす。

## 2 中期的目標

- 1 生徒たちが学び育ち合い、教師たちも学び育ち合う学習活動を推進する。
  - (1) グループでの学習を中心に生徒同士で分からないことを聴き合い、確かな学力を育成する。
    - ア 活性化プロジェクト会議を中心に、公開授業と研究協議を実施し、生徒同士が励まし合いながら学ぶ楽しさを体得できるよう授業改善に取り組む。  
※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を（平成 26 年度 75%）、平成 29 年度には 85%をめざす。
- 2 全教育活動を通して規範意識を醸成し、学校への帰属意識を高める。
  - (1) 基本的生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。
    - ア 生活指導部を中心に、各学年集会やホームルームにおいて、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。  
※生活習慣の改善と中退防止からの観点から遅刻者数を毎年 10%減をめざす。
  - (2) 問題・課題を抱える生徒に対し、全教員が生徒一人ひとりにきめ細かな対応し、不登校や中途退学を防止する。
    - ア 修学支援委員会を中心に、支援を必要と考える生徒の個別支援プランを考え、全教職員で周知、指導にあたる体制を作る。  
※生徒向け学校教育自己診断の入学満足度を（平成 26 年度 66%）、平成 29 年度には 80%をめざす。
- 3 自尊心を高め、生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。
  - (1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・人生観を養う。
    - ア 進路指導部を中心に、各学年が、3年間を見通した進路計画をもとに系統的な指導を行っていく。  
※進路未決定者を（平成 26 年度 30%）、平成 29 年度には 20%をめざす。また、学校斡旋就職者の割合を（平成 26 年度 52%）、平成 29 年度 70%以上をめざす。
- 4 部活動・学校行事など活気あふれる元気な学校にする。
  - (1) 部活動や生徒会活動への参加を呼びかけ、活動を通して豊かな人間性を育成する。
    - ア 部活動や生徒会活動等を通じて、責任感、連帯感、達成感を育む。  
※生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度を（平成 26 年度 53%）毎年 5%引き上げ、平成 29 年度には 70%をめざす。  
※1年生の部活動加入率を（平成 26 年度 20%）を平成 29 年度には 45%をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b> ・生徒同士での学び合いに重点を置いた「協同的な学び」に取り組んでいるが、一斉授業になれている生徒にとって、小グループで考える授業に慣れていないため「授業はわかりやすく、内容に満足できる。」の項目に対して全体で 51.2%が肯定的であった。「教え方に工夫をしている先生が多い。」の項目では、1年生が 55.8%、2年生が 56.9%、3年生が 65.2%と学年が上がるほど肯定的になり、「協同的な学び」に対する理解度が増していると思われる。また、授業アンケートの「授業改善」の項目では 76%と「協同的な学び」の定着が見られる。</p> <p><b>【生徒指導等】</b> ・「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の項目で、1・2年生で 50%が肯定的であるのに対し、3年生では 72%が肯定的であった。また、「担任の先生以外にも保健室や相談室で、気軽に相談できる先生がいる。」の項目では、1年生が 32.9%、2年生が 51.6%、3年生で 66.2%が肯定的であった。これについては、教員と生徒の人間関係作りを深めていく必要があると同時に、担任が全てを抱え込むのではなく学年団の教員が生徒との関わりを深めることが必要であると思われる。</p> <p><b>【進路指導等】</b> ・各学年で職業観や勤労観を高めるよう系統立てて進路指導を行ってきているが、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の項目に対し、1・2年生は 52%が肯定的であるのに対して、3年生では 74.8%が肯定的であった。また、「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」の項目に1年生は 48.8%、2年生は 55.8%、3年生は 78.5%と肯定的であった。3年生については自らの進路に対して、真剣に考えてきているが、1・2年生ではまだ現実の問題として受け止めていないと思われる。1・2年生からの意識を高めていく工夫が必要となる。</p>	<p>第1回 (6/24) ○平成 27 年度学校経営計画について ・「協同的な学び」も取り組み 3 年目となるが、3 年生の意識が変わってきたように感じる。体育祭などみんなで取り組み盛り上がりを感じた。これも「協同的な学び」の活動の一つとしている「生徒を一人にしない」の表れと思うので、これからもしっかりと取り組んでいきたい。 ・就職に関しては、無遅刻・無欠席ということが責任感につながると考える。1 年生から遅刻・欠席をしないよう指導をよろしく願いたい。</p> <p>第2回 (10/7) ○本年度重点目標の進捗状況等について ・就職、就労意識は体験を通じて養っていくことが大事である。学年を超えての指導は難しいと思うが、是非とも学年を超えた活動をお願いしたい。 ・「ありがとう」の言葉は大切なことであり、会社でも「ありがとう」という紙を渡すようにしている。教育者も生徒に「ありがとう」という声掛けをして関わりを持ってほしい。 ・遅刻・欠席を減らすために、生徒に根本的なところをしっかりと伝えていく必要がある。また、生徒は教員に頼りにされることで学校生活が充実し、毎日学校に行こうと思うようになる。様々な形で生徒にかかわって欲しいと思う。</p> <p>第3回 (2/1) ○本年度学校教育自己診断アンケート結果概要について ・校長の話が分かりにくいという結果があるが、各担任が教室で校長の話をも具体的に生徒に伝えることが望ましい。 ・3 年生で「この学校に入学して良かった。」という声が多いが、要因は協同的な学びなどで支え合っていることだと思うので、継続してやってもらいたい。 ○本年度の学校経営計画に基づく取り組みの総括について ・進路決定率をさらに上げるためにも 1 年生からしっかりと職業観が持てるようキャリア教育の充実をお願いする。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び育ち合う学習活動を推進する。	<p>(1) グループでの学習を中心に生徒同士で分からないことを聴き合い、確かな学力を育成する。</p> <p>ア 公開授業と研究協議を実施し、生徒同士が励まし合いながら学ぶ楽しさを体得できるよう授業改善に取り組む。</p>	<p>ア・各教科で、コの字型と小グループを併用し、生徒同士の学び合う授業づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、授業規律を徹底する。</li> <li>・わからないことは、グループの仲間に「聴く」習慣を身につけさせる。</li> <li>・グループでの学び合う関係は、話し合う関係ではなく聴き合う関係であることを理解させる。</li> <li>・各学年で年間5回以上の公開授業と研究協議をセットで行う。</li> <li>・教員は、積極的に他教科の公開授業を見学し自分の授業以外での生徒の学び合いを参考にし、教材研究に役立てる。</li> </ul>	<p>ア・授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を80%以上 (H26実績75%)</p> <p>・公開授業、研究協議会を年間25回以上実施 (H26実績20回)</p>	<p>ア・授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」は昨年度同様に75%であった。(△)</p> <p>・公開授業、研究協議会は問題、課題への対応等があり、年間10回であった。(△)</p>
2 学校教育活動を通して規範意識を醸成し、学校への帰属意識を高める。	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p> <p>(2) 問題・課題を抱える生徒に対し、全教員が生徒一人ひとりにきめ細かな対応し、不登校や中途退学を防止する。</p> <p>ア 支援を必要と考える生徒の個別支援プランを考え指導にあたる体制を作る。</p>	<p>ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因を探り、指導にあたっては、なぜ遅刻、欠席がいけないのかを理解させ、常習者の減少を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のあいさつ運動や普段のあいさつに教師が積極的にかかわり、あいさつの重要性を理解させ、生徒同士や教員と生徒のコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。</li> </ul> <p>ア・問題・課題を抱える生徒の早期把握に努め、修学支援委員会を中心に全教員が共通認識を持ち、人権に配慮した適切な生徒対応をするため、迅速なケース会議を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりとしつこく向き合い、生徒の状況を把握し、問題解決に向けた迅速な対応に努める。</li> </ul>	<p>ア・昨年度の遅刻者数の30%減 (H26実績 H25年度の1.5倍)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度70% (H26実績51%)</p> <p>イ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の入学満足度70% (H26実績67%)</p> <p>ア・生徒・保護者向け教育自己診断の教育相談満足度70% (H26実績60%)</p>	<p>ア・遅刻者数の減少については、昨年度に比べ、月によっては50%減も見られた。トータル的に30%減は達成できた。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度は50%〈保護者向けで72%〉であった。(△)</p> <p>イ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の入学満足度71%であった。(○)</p> <p>ア・生徒・保護者向け教育自己診断の教育相談満足度60%であった。(△)</p>
3 自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。	<p>(1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定観を養う。</p> <p>ア 進路指導部と各学年が、系統的な年間計画にもとづいてキャリア教育を推進する。</p>	<p>ア・1学年の進路担当者が入学後早期からホームルーム等において自己分析をさせるとともに自己肯定観を養う取り組みを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府専修学校各種学校連合会との連携により、実践的職業教育のリソースを活用するなど職業観・勤労観を養う学習プログラム、体験学習等を充実させる。</li> <li>・企業経営者等との懇談会など現実的な職業観を学ぶ機会を多く設ける。</li> <li>・進学希望者に向けては、補習等により学力保障を図るとともに進学資金計画、奨学金制度について保護者を含めて説明会等により正しく理解させる。</li> <li>・支援を要する生徒については、専門機関との連携を図りながら生徒の適性・能力を把握し、職場実習を実施し、進路実現を支援する。</li> </ul>	<p>ア・生徒向け学校自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度70%以上 (H26実績66%)</p> <p>・職業観育成プログラム等への参加希望者60名以上 (H26実績50名)</p> <p>・進路未決定者25%以下そのために就職希望者のうち学校斡旋就職希望者の割合を60%以上 (H26実績52%)</p>	<p>ア・生徒向け学校自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度は59%で3年生では77%と進路に対する意識の違いが出ている。(○)</p> <p>・職業観育成プログラム等への参加希望者60名であった。(○)</p> <p>・進路未決定者15%以下また、就職希望者のうち学校斡旋就職希望者は69%であった。(◎)</p> <p>・学校斡旋就職希望者の内定率は89%で、昨年度より5ポイントアップした。(◎)</p>